

# 令和2年度 さいたま市立大谷場中学校 自己評価書

校長 館 岡 靖 哲 印

## 1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) さいたま市のよい授業4つの因子を活用し、1単位時間ごとのねらいを明確にし、生徒の授業満足度を高める。年度末学校評価(生徒アンケート)結果で85%以上の肯定的評価を目指す。…「生徒の学力・学習状況」「教員の授業にかかわる評価」
- (2) いじめ・不登校の削減を目指し、積極的に緻密な生徒指導、教育相談を、生徒指導部会や教育相談部会及び外部機関を交えて組織的に展開する。…「生徒の安全・安心」「いじめ防止等」
- (3) 小・中一体型校舎の利点や特性を生かし、具体的な小・中の連携を推進し、系統性を意識した指導を展開する。
- (4) 家庭・地域との連携を図り、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。特に安全・安心な学校づくりに努めていく。…「地域との連携」

## 2 評価結果について

- (1) 生徒による学校評価アンケート結果で、授業満足度について88.9%の肯定的な評価を得て、85%以上の目標値を達成することができた。(参考:昨年度87.6%、一昨年度79.8%)保護者による学校評価アンケートでは、授業満足度に関する質問に対して、84.3%が肯定的であり、生徒の評価を若干下回った。保護者の数値は前年より若干上がっており、教職員の取組について引き続き継続していく。
- (2) 「先生方は、生徒の悩み等に親身になって相談してくれていると思いますか」の質問に対し、生徒による学校評価アンケート結果では92.7%が肯定的な結果であった。(参考:昨年度93.3%、一昨年度90.7%)また「学校雰囲気良く、生徒が生き生きとしていと思いますか」の質問に対し、保護者による結果では92.6%が肯定的な結果であった。(参考:昨年度95.5%、一昨年度94.7%)更に、いじめ防止の取組について、生徒による結果では72.5%が肯定的な結果であった。(参考:昨年度75.1%、一昨年度70.0%)同様に保護者による結果では、87.0%が肯定的な結果であった。(参考:昨年度87.9%、一昨年度81.8%)
- (3) 小・中での取組として、年度初めに計画した事業は次の通り。4月小・中合同教職員研修会、5月小・中合同避難訓練・集団下校、6月小学校の児童へ放課後美術(図工)指導、7月小学校の児童1・2年生へ中学生保健委員が歯磨き指導、8月小・中教職員4校合同研修、10月市一斉小・中一貫「つぼみ」の日、小・中合同避難場所開設訓練、12月小学校サッカー大会へ中学から審判員派遣、1月小・中合同避難訓練、小学校の児童1・2年生へ中学校の図書委員が「読み聞かせ」。以上の活動とは別に適宜、小・中の教職員間で打合せを行う予定であったが、コロナ禍に伴い、本年度については、そのほとんどが実施できなかった。
- (4) 保護者による学校評価アンケートでは、「学校が出す文書や連絡などは、分かりやすく内容も適切だと思いますか」で92.8%と肯定的な評価を得ているものの、記述欄には「コロナ禍により学校に行く機会が減り、学校の様子が分かりにくい」といったような意見が散見された。

## 3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 令和3年度4月から大谷場東小学校の高学年が「さいたま市型小学校教科担任制」を実施することに伴い、大谷場東小学校との系統的・計画的な小・中一貫教育の実現に向け、引き続き連携を深めながら小・中一貫教育の充実を図る。
- (2) 校長が作成した学校運営に関する基本的な方針を承認するなど、地域住民や保護者等が学校運営に参画する仕組みを作り、学校教育目標及び学校経営方針の具現化等を図るため、令和4年度に学校運営協議会を開設し、コミュニティ・スクールに移行する。これに伴い、令和3年度は学校運営協議会の開設準備を進める。
- (3) 令和3年度から新学習指導要領が全面実施されることを受け、新学習指導要領の理念に基づいた指導や評価を実施し、授業の満足度を更に向上させるとともに、新学習指導要領の改訂の基本方針及び改訂の趣旨を踏まえた授業の改善を図るため、校内研修の充実を努める。また、「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図る。更に、令和3年度から一人につき一台配置されるタブレット端末を授業等で効果的に活用するための研修を継続していく。
- (4) 令和2年度に開設した特別支援学級の更なる指導の充実を目指す。特別支援学級と通常学級の交流や連携に対応するため、校内研修等を通して、特別支援の生徒理解を進めるとともに、通常生徒との心の交流や授業、学級活動等の交流の仕方について引き続き研究する。